

鳥取県衛生環境研究所研究評価の概要（平成24年度）

平成24年10月18日
鳥取県衛生環境研究所

鳥取県衛生環境研究所では、県政の重要課題や県民ニーズを踏まえた研究活動の活性化を促進し、優れた研究成果を上げるため、平成16年度から県庁組織外部の有識者、専門家による外部評価制度を導入しています。

平成24年度は、平成25年度から新たに実施しようとする研究課題についての事前評価、平成24年度時点で研究途中の研究課題についての中間評価、平成23年度で終了した研究課題についての事後評価を行いました。概要は以下のとおりです。

1 評価方法・評価項目

評価は、研究課題ごとの計画書又は報告書に基づいて、次の区分で実施しました。

● 事前評価

- (1) 評価項目：①研究課題の必要性 ②研究の効果 ③研究計画・研究方法
④研究体制・研究予算 ⑤総合評価
(2) 対象課題：平成25年度に新規に実施しようとする全ての研究課題（7課題）

● 中間評価

- (1) 評価項目：①研究の実施状況 ②研究の成果 ③研究の効果
④目標達成の可能性 ⑤総合評価
(2) 対象課題：3年以上の研究期間を有するものについて必要に応じて実施（3課題）

● 事後評価

- (1) 評価項目：①目標の達成度 ②研究の成果 ③研究の効果・成果の実用化
④研究成果の発展性 ⑤総合評価
(2) 対象課題：平成23年度で研究期間が終了した全ての研究課題（6課題）

2 評価者

評価者は、保健衛生又は環境に関する専門家で、かつ公正な立場で評価していただける学識経験者と、県民の代表として県民、住民団体、企業等の視点から評価していただける有識者から次のとおり選任しました。（敬称略）

【専門家】

氏名	所属・役職	備考
伊藤 壽啓	鳥取大学農学部獣医学科 教授	再任
野津 あきこ	鳥取短期大学生生活学科 教授	再任
松村 治夫	鳥取環境大学環境学部環境学科 教授	新任
赤尾 聡史	鳥取大学大学院工学研究科 助教	再任

【県民代表】

氏名	活動・所属団体等	備考
安本 仁子	特定非営利活動法人鳥取県消費者協会 代表（消費生活アドバイザー）	再任
三津国美枝子	湯梨浜町民ミュージカル実行委員	再任
福田 忠明	NPO 太陽エネルギー学校 代表 とっとり環境ネットワーク環境教育推進グループ コーディネーター	再任

3 評価の実施期間

平成24年8月～9月（ヒアリング実施日：平成24年8月27日（月）、9月4日（火））

4 評価結果及び対応

(1) 事前評価

評価対象の7課題の評価結果は、別紙1のとおりでした。

- 「評価点」について

評価対象7課題の評価点の合計は、20点満点中15.4～16.4点（平均15.9点）でした。

- 「評価上位」について

どの課題も評価点が平均点前後となっていますが、その中でも保健衛生分野の食中毒検査（番号2）やレジオネラ属菌の検査（番号3）に関する研究が上位に位置しています。

- 「総合評価」と今後の対応について

全7課題について、総合的に「実施すべきもの」と評価を受けました。

今後は、各評価者の所見、指摘事項等を踏まえて、研究計画をさらに精査した後、来年度の事業化に向かいます。

(2) 中間評価

評価対象の3課題の評価結果は、別紙2のとおりでした。

- 「総合評価」と今後の対応について

全3課題について、総合的に「継続すべきもの」と評価を受けました。

引き続き、各評価者の意見等を踏まえ、目標達成に努めます。

(3) 事後評価

評価対象の6課題の評価結果は、別紙3のとおりでした。

- 「総合評価」と今後の対応について

全6課題について、総合的評価として「評価A（優れた研究成果）」でした。

評価項目全般について、評価者の意見を踏まえ、背景や理由等を検証し今後の研究課題の設定や進捗管理に活かします。

(4) 全般的事項

評価者から調査研究の実施に際しての留意点や着眼点等の助言をいただきました。

事前評価及び中間評価の対象課題については、新規実施及び継続の必要性や重要性について認めていただき、全般的に評価者からは前向きな評価を多くいただきました。

しかし、より具体的な研究計画や予算額、関係機関との連携等、検討すべき事項があるとの指摘を受けた課題もあり、評価者からいただいた意見等を踏まえ、見直しを図っていく予定です。

(別紙1)

●事前評価対象課題と評価結果				研究課題の 必要性	研究の効果	研究計画・ 研究方法	研究体制・ 研究予算	評価点合計	総合評価
担当室・ チーム		番号	題名	平均点	平均点	平均点	平均点	平均点	
大気・地球 環境室	事前	1	光化学オキシダントの植物への影響調査	4.0	4.4	3.7	3.6	15.7	実施すべきものとする。
保健衛生室	事前	2	食中毒検査の迅速化に関する研究	4.4	4.4	3.9	3.7	16.4	実施すべきものとする。
	事前	3	レジオネラ属菌の生菌選択的検出PCR法の活用に関する研究	4.3	4.6	3.9	3.7	16.4	実施すべきものとする。
リサイクル チーム	事前	4	焼却灰の無害化及び再資源化に関する研究	4.4	4.3	3.6	3.6	15.9	実施すべきものとする。
	事前	5	ホウ素の排水処理技術の開発	4.1	4.1	3.6	3.6	15.4	実施すべきものとする。
水環境対策 チーム	事前	6	湖山池の環境変化に伴う生物多様性・生態系評価及び自然再生手法の検討	4.6	4.6	3.6	3.7	16.4	実施すべきものとする。
	事前	7	東郷池における住民意識を取り入れた新たな環境指標の検討	4.3	3.9	3.6	3.7	15.4	実施すべきものとする。

新規評価対象課題: 7題

<総合評価の基準>

15点以上 実施すべきものとする。

10点以上 委員の意見等を反映して実施すべきものとする。
15点未満

10点未満 原則、実施しないものとする。

(別紙2)

● 中間評価対象研究課題一覧					研究の実施状況	研究の成果	研究の効果	目標達成の可能性	評価点合計	総合評価
担当室・チーム		番号	題名	研究期間	平均点	平均点	平均点	平均点	平均点	
大気・地球環境室	中間	1	鳥取県における黄砂・大気粉じんの実態及び健康影響に関する基礎的調査研究	H23～H25	3.6	4.3	3.9	4.0	15.7	継続すべきものとする。
リサイクルチーム	中間	2	廃小型電気電子製品等に含まれるレアメタル等の資源化とリスク評価	H23～H25	3.9	4.4	3.9	3.9	16.0	継続すべきものとする。
水環境対策チーム	中間	3	湖沼汚濁機構解明に資する新モニタリング手法(リモートセンシング)の開発	H23～H25	3.9	4.3	4.3	4.1	16.6	継続すべきものとする。

中間評価対象課題：3題

<総合評価の基準>

15点以上 継続すべきものとする。

10点以上 委員の意見等を反映して継続すべきものとする。
15点未満

10点未満 原則、継続しないものとする。

(別紙3)

●事後評価対象研究課題一覧					目標の達成度	研究の成果	研究の効果・成果の実用化	研究成果の発展性	評価点合計	総合評価
担当室		番号	題名	研究期間	平均点	平均点	平均点	平均点	平均点	
保健衛生室	事後	1	感染症の原因となるRNAウイルスの網羅的な検出方法の確立	H23	3.7	3.9	3.7	3.7	15.0	評価A (優れた研究成果である。)
リサイクルチーム	事後	2	排水処理におけるホウ素除去メカニズムの解明と新規排水処理技術の開発	H22~H23	3.9	4.1	3.7	3.9	15.6	評価A (優れた研究成果である。)
水環境対策チーム	事後	3	光触媒を利用した水質浄化手法の研究	H21~H23	4.1	4.6	3.9	4.1	16.7	評価A (優れた研究成果である。)
	事後	4	中海におけるサルボウ場の再生に関する研究	H21~H23	4.9	4.9	4.6	4.4	18.7	評価A (優れた研究成果である。)
	事後	5	中海におけるコアマモ場の再生方法に関する研究	H22~H23	3.9	3.6	3.9	3.7	15.0	評価A (優れた研究成果である。)
	事後	6	生態系に視点を置いた湖山池の汚濁機構の究明に関する研究	H22~H23	4.1	4.1	3.9	4.0	16.1	評価A (優れた研究成果である。)

事後評価対象課題： 6題

<総合評価の基準>

15点以上 評価Aとする。(優れた研究成果である。)

10点以上 評価Bとする。(研究成果として概ね適当である。)
15点未満

10点未満 評価Cとする。(研究成果が乏しい。)